

便通一回（硬く肛門より少しく出血）

八月六日 ガラスの切口の、青きを見て、蚊帳ア

ヲといふ、かやの様に青しといふ意味ならん、

今日より獨りにて、ヒを持つて粥を喰べる、

八月七日 母此の二三日 氣分勝れず、横になり

居りしに、カーチャン、キークワライといふ、

一昨日母か云ひしを、覺え居りしなり、

モーチ、カヒ〜といふ、二三日前、牛乳の配

達おそかりし故、もらひに出かけし事を思ひ出

したるなり、

電車の玩具をもつて、チン〜ゴ〜、ゴケ

ンチヨ〜といふ、便通二回

八月八日 小原先生より、牛乳を四〇〇瓦に増せ

と仰せらる、

少しく元氣悪し、

八月十一日 母と幸田様へ遊びに行き、二階の、

梯子を登り降りしてよろこぶ、

両方、二つ、イツシヨなどいふ事を覺ゆ、數の

考ふこりしならん、

子供らのはなし

何れも幼稚園の子供、可愛い盛り、の四つから五つ

六つ位までの男の子や女の子やが、先生をつかま

へての、家であつたこととしたことのお話、中には

想像で造り出して、よい加減のことをいつて居る

のもあらうし、別にこれといふ節もないのではあ

るが、集めて見れば、さて彼等の思つて居ること、

して居ること、さては家庭の風なども見えつるま

ゝに、かくはしるしぬ。子供は、東京の中流以下、

まづは下層の上なるものなり。

▲神谷隆之助 先生よる夢を見ました、池に鯉いけこひのたひだのが、たくさんおよひで、其池そのいけのまはりまわりに、狐きつねがちやんくくを着て太鼓たいこをたゝいて、おどりなどして居ゐました。

▲田中清太郎 せんに、餅草摘もちくさつまみに行つて、難なんせん船ふねを見ました、難なんせん船ふねと云ふのは、船ふねの中に、水みづがたくさんはいつて、しづみそうになるのです。

▲野上孝治郎 象ぞうが鳥屋とりやへ鳥とりとりにきたものだから、鳥とりのあたまをやつたら、象ぞうが怒おこつて鼻はなをかけ、にげようと思おもつたら、象ぞうがのろいものだから、なか／＼にげられなくて、其内そのうちに人ひとが来て、鐵てつの棒ぼうでぶつたら、死しんでしまいました。

▲齊藤はま 猫ねこがゐていつか井戸いどのまわりを廻まはつていて、おつこつて、井戸屋いどやが来て猫ねこをとつて、あきだなのうしろへ埋うめてしまつたの、其時そのときおか

しを買かつてたべたの。

▲尾崎鐵太郎 もうせんにね、お春はるさんの兄あにさんと明神様みんじんさまへ行つたら、たちんぼうがいて、棒ぼうをあかんぼだつて、ねん／＼ようと云いつてゐました、そうしてお相撲すましろつて云ふたら、東西ひがしにしなんて云いつて、わざとこるびました、それでもつておまわりさんにしかられました。

▲廣田のい あたしと五郎ごろうさんと直次郎なほぢろうさんと三人にんして、直なほちやんがあかんぼで、あたしがお母かあさんで、五郎ごろうさんが兄にいさんだつて、おばさんごつこして、ござを敷して遊あそびました。

▲加藤某 けさ、私わたしがくる時とき、お魚屋さかなやさんが来て、おばあさんがなまりとさしみとでは、どつちがい／＼つて云いひましたから、どつちでもいひつて云いひましたら、おさしみを買かつて置おいてくれてお晝ひる

たべます。

▲吉澤某 おちいざんとおばあさんとあつて、お婆さんがついでと鮭と持つて、どぶをまたごうとして、鮭をどぶの中へ落してしまつたら、お婆さんがなさない事をした、なさない事をしたつて云ひました。

▲野上某 どつかの勸工場に行つたら、大きな綺麗な孔雀がいました。南京鼠が車屋の水車みた様の中へはいつて、くるくまわしていました。

▲大石某 田舎の子は、朝お茶碗の音がすると、すぐに起きるつて、お母さんが云ひました。

▲野上某 お父さんが御酒が好きで、ゐゝ子だものだから、瀧の水が御酒になつてしまつたの、子供がお母さんに、何がすきですと云つたら、花がいゝつて、それで花をたいへんそこに植て、御馳

走をたくさんこしらへて、べんく三味線ひいて、お母さんに見せました。

お魚を、お父さんが買つておいでと、云つたのに、お魚がないものだから、こまつていたら、鳥かかあゝつて飛んで来て、お魚を落していつてくれたの。

お使に行くのに、お父さんが、下駄はいて行つて、お母さんが草履はいて行つて、しかたなく、かたちんばにはいて行きました。

▲某 先生、昨日うちへ歸つて、今日は私たちの、幼稚園へ初めて、はいつた日で、それで廣い庭で遊んだり、孔子様を見に行きましたつて、話したら、お母さんがそれはよかつたねと云ひました。